# Ⅳ-342　近世城郭における枡形の規模に関する基礎研究

日本大学大学院　学生会員　赤見将也
日本大学理工学部　正会員　新谷洋二

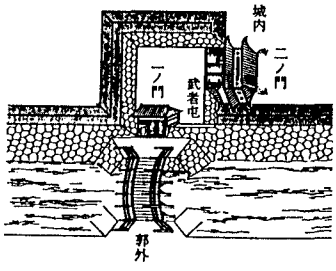
## １．目的

枡形について今まで言われ続けてきた、軍学をふまえた多くの説について、現在残っている枡形による実例や（近代測量による地図）、城郭の絵図により検証し、枡形の規模を中心に枡形規模の実態と、大まかな傾向を調べることを目的とするものである。

## ２．枡形について

本研究では、枡形を「横矢のための枡形」としてではなく、枡形を「城門枡形」として扱い、桝形の定義を以下のように定めた。

「虎口を四角く城塁で囲った区画で、城内側と、城外側に二つの城門を備えたもの」（図－１）




図－１　枡形図

## ３．研究方法

１）正保城絵図を中心とした100の絵図面について、枡形の曲がり方向を左前(右曲がり)、右前(左曲がり)、直進型(その他)に分けて調べる。
＊（）内は、城外から城内への曲がり方向

２）1/2500国土基本図、参謀本部陸軍部測量局作成「1/5000東京図測量原図」、大熊喜邦氏研究結果からサンプルを抽出し、高麗門側の石垣の内側の寸法を枡形の幅、幅と直角をなす辺を奥行きとして、ＸＹグラフを使用し、枡形の規模を考察する。

## ４．結果と考察

### １）左前、右前思想の築城への影響

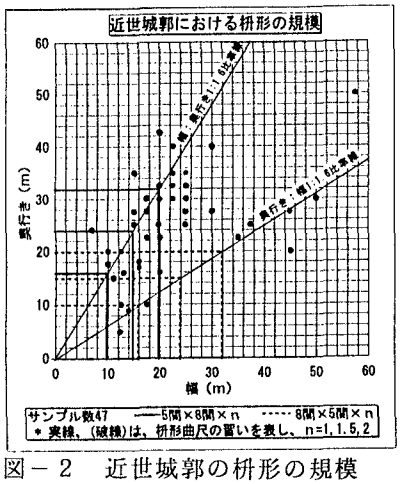
枡形の曲がり方向については、100の城郭については表－１の様な結果となり、忌避されるはずの右前のサンプル数が左前の数に近い値であることから、軍学における枡形の左前、右前思想は実際の築城に際して、あまり、大きな影響を及ぼしているとは思われない。

表－１　枡形の曲がり方向結果表

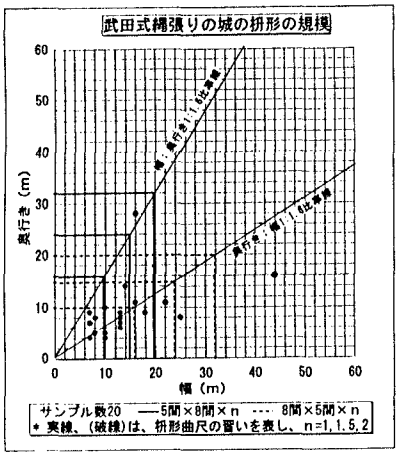
| 左　前 | 右　前 | 直　進 |
|---|---|---|
| ９５ | ８４ | ５９ |

### ２）「五八の枡形」の存在確認

今回の調査では、枡形の標準の大きさであるはずの「五八の枡形」（5間(約10m)X8間(約16m)）は近世城郭のサンプル(図-2)では見あたらず、武田式縄張りの城の枡形のサンプル(図-3)に多くその規模の枡形が存在し、近世城郭では、調査結果からも、小ささの限界であり、「五八の枡形」と言う枡形の大きさの基準は、多くの城郭参考書籍で言われている近世城郭の大きさの標準ではなく、中世武田氏の枡形(図-3)の標準の大きさではないかと思われる。




図－２　近世城郭の枡形の規模




図－３　武田式縄張りの城の枡形の規模

### ３）「枡形曲尺の習い」の使用確認

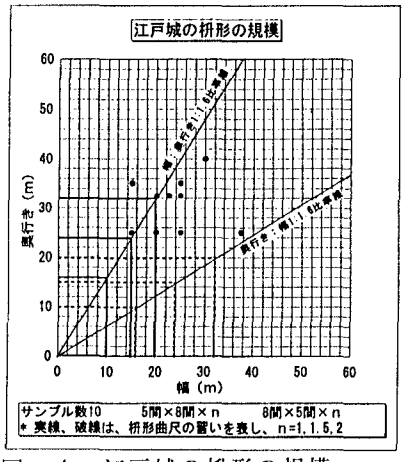
「枡形曲尺の習い」については、今回の調査では、その基準にズバリ当てはまるものはほとんど見あたらず(図-2.3実線)、幅、奥行きの寸法のどちらか片方だけがその基準に合っているといったサンプルが多く存在し、「枡形曲尺の習い」が枡形を作るに際して部分的に使用されているのか、それとも全く使用されていないのか判別がつきかねる。この様な結果から、「枡形曲尺の習い」は、築城の際の枡形の一般的な大きさ目安（範囲）を示した言葉ではないかと思われる。

### ４）枡形規模の大まかな傾向

今まで「五八の枡形」の標準形は幅５間に奥行き８間と思われていたが、調査結果では、仮に「五八の枡形」という基準が長さの比率であると解釈すると、幅×奥行き、奥行き×幅(図-2.3.比率線)が1:1.6の比率に近い枡形も多く存在する。よって、「五八の枡形」という大きさの基準は長さの比率をも表し、またその適用法は、幅×奥行きの長さの比率だけでなく奥行き×幅についても適用されていたと思われる。

### ５）江戸城の枡形の規模

図－４は、図－２より、江戸城の枡形を抽出したものである。江戸城の枡形は、他の城と比べて平均的に規模が大きく、幅、奥行きの寸法に比較的固まりが多く見られる。(図-4)この事より、江戸城では、枡形を作る上で、何か一定の基準があったように思われる。但し、江戸城については、その成り立ちからも普通の城郭と同じに扱うことができず今後文献調査も含めて、一層の傾向の把握につとめなければならない。




図－４　江戸城の枡形の規模

## ５．まとめと今後の課題

今回、本研究を行うに当たり一番のきっかけとなった言葉は「五八の枡形」という「甲陽軍鑑」の中の用語である枡形の大きさを表す言葉である。今回の調査では、近世城郭においては、「五八の枡形」の存在はほとんど確認することが出来なかった。また、「五八の枡形」の思想を発展させた「枡形曲尺の習い」ついてもはっきりとした形で実際の築城に使われているか確認できなかった。この結果が、サンプル不足から来るものなのか、それとも本当にこの結果でよいのか、もっと多くのサンプルを精査する必要がある。今回、城門枡形を枡形として扱ったのだが、枡形には、他にも、枡形郭というものがある。同じ名前が付いている以上、規模や形態について関係をどう説明するのか、また、枡形が虎口の形態を表す言葉である以上、虎口の発達をもふまえた上での詳しい研究が今後の課題である。

参考文献　1)伊藤ていじ　「城」その築城の技法と歴史
読売選書　1973.3
2)大熊善邦　江戸建築叢話
東亜出版社　1973.3
3)鳥羽正雄　日本城郭史
有峰書店新社　1936.11
4)村田修三　図説中世城郭辞典
新人物往来社　1988.4